

## 第2回京都府スーパーサポートセンター公開講座 平成25年6月8日(土) 『大学生の姿から考える中・高生支援』 報告



講師 立命館大学・学生オフィス 特別ニーズ学生支援室  
京都府スーパーサポートセンター 府専門家チーム  
片山 愛氏

京都府スーパーサポートセンター 府専門家チームでも毎年お世話になっている、立命館大学学生オフィス特別ニーズ学生支援室コーディネーターの片山愛先生をお招きし、上記のテーマで実施しました。第2回も第1回と同様に、土曜日開催で実施したところ、42名の方に御参加いただきました。

今回の講座では「成長支援のあり方」について、「自転車に乗る」を例に、新しいお話をしていただきました。「自転車に乗りたい」という気持ち(目的意識※1)→補助輪つきで練習する→補助輪なしで大人の支えを得ながら練習する→ヘルメットを着けて、またやわらかい土の上で(環境調整※2)、こけながら(失敗体験※3)一人で乗る、どうすればうまく乗れるかを教えてもらう(アドバイスとフィードバック※4)といった過程を誰しもが通るように、支援の考え方も同じです。これが「成長支援」の考え方です。

※1 目的意識：希望と適性判断のバランスがとれた目的意識の言語化

※2 環境調整：適性範囲内の失敗を可能にする環境調整

※3 失敗体験：失敗に基づく学びの体現化と見通しのたつ試行錯誤

※4 アドバイスとフィードバック：「目的意識」「環境調整」「失敗体験」の観察結果に基づく達成度や成果の言語化

以下、講座の内容をキーワードで振り返ります。

### 「発達障害学生の現状から考える小・中・高生支援～成長支援のあり方～」

発達障害とは：「個別性」「環境」「成長課題(年代別)」の関係/大学前の教育環境と、大学の教育環境の違い  
発達障害学生の傾向：平成17年度-平成24年度大学・短期大学・高等専門学校における障害学生の修学支援に関する実態調査結果報告書(独立行政法人 日本学生支援機構)

特別ニーズ学生支援室(成立の背景、体制)：困っている学生、保護者、教職員と一緒に考え、一緒に対応する仕組みづくりの必要性/支援コーディネーター業務と支援方針/直接支援と見守り支援

支援の考え方(熟成する支援)：「見守り支援」から信頼関係・特性把握を経て「直接支援」へ

支援の考え方(成長支援とは)：目的意識⇒環境調整(安全確保)⇒失敗体験⇒アドバイス・フィードバック

#### 事例

発達障害学生の様態：障害名や特性理解の有無、自己理解の有無、試行錯誤の可否、適応と不適応

発達障害児・生徒から学生へ(年齢に応じた体験)：学習体験/文化体験/集団体験

発達障害児・生徒から学生へ(年齢別課題の発見と言語化)：状況分析/将来予測

「発達障害学生」を目指した育成(組織体制の整備)：気付きのシステム/指導のシステム/リスク管理のシステム  
まとめ：「学校から社会へ、三輪車から自転車へ」

### アンケートより

・学校として「気付きのシステム」から「指導のシステム」「リスク管理のシステム」につなげていく体制が必要だということを知ることができました。(高等学校)

・大学での支援室の様子があった。学内で具体的に、一方向に向かって支援されているということが、高校の現場では必要なことなのだと感じた。(高等学校)

・「発達障害があるから」、「個に応じたニーズと言われているから」、ということもあるが、やはり社会参加するためにダメなことはダメと教えていくことの必要性。組織として動く大切さを学びました。(中学校)